

【高等学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度(評価)

A:十分達成できている C:やや不十分である
B:おおむね達成できている D:不十分である

学校名	佐賀県立白石高等学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要 (簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上や資格取得、健康・安全教育など、多くの面で成果が見られた。一方、キャリア教育の理解低下やいじめ重大事態、特別支援教育の専門性不足、校舎制の連携不十分など課題も明確になった。 ・より質の高い教育と学校運営の実現を図る。
------------------------	--

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○普通科と商業科を併置する特徴を生かし、校舎制の学校として独自の魅力を高める。 ○地域との協働を通して、高い志と主体的に未来を切り拓く力を持ち、地域や社会に貢献できる人間性豊かな人材を育成する。
----------------------------	--

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標
	1 基本的な生活習慣を身に付け、周りと協力・協働できる生徒を募集します。 2 部活動や生徒会活動、ボランティア活動に積極的に取り組み、地域や社会に貢献しようとする生徒を募集します。 3 【普通科キャンパス】将来の「夢」の実現に向けて、チャレンジする精神を持ち、主体的に学習に取り組む生徒を募集します。 【商業科キャンパス】社会で活躍できる知識・技術の習得や資格取得に意欲的に取り組む生徒を募集します。	1 基礎学力の向上と進路選択の幅をもたせることに重点をおいた教育課程を編成します。 【普通科キャンパス】1年次で必修科目を中心に学習し、2年次から文系・理系のコースに分かれ生徒の進路希望に応じた学習ができる教育課程を編成します。 【商業科キャンパス】1年次で商業の基礎科目を共通履修し、2年次から生徒の興味・関心に応じて学習できるようコースの特色が出る教育課程を編成します。 2 豊かな人間性と社会に必要な汎用的能力を育むために、「総合的な探究の時間」をおとして白石町・大町町・江北町等と連携した探究活動に取り組むとともに、特別活動の充実と部活動、ボランティア活動等への積極的な参加を支援します。 3 生徒一人ひとりの学力を伸ばし、進路実現を支援します。 【普通科キャンパス】習熟度別授業・少人数指導とAIを用いた個別最適な学習を取り入れ、基礎から応用まで幅広い学力の養成を支援します。 【商業科キャンパス】個の学びに寄り添うきめ細やかな指導を行い、ビジネスに関する学びの深化とビジネススキルや各種資格の習得を支援します。学校行事や部活動、生徒会活動、ボランティア活動の充実を図ります。	1 清らかで優しく、明るく思いやり豊かな人間性を育成します。 2 主体的に行動する態度と課題解決能力を育成します。 3 夢を形にできるように、 【普通科キャンパス】一人ひとりに確かな学力と生涯にわたり主体的に学ぶ態度を育成します。 【商業科キャンパス】商業の専門的な知識と技術の基礎・基本を習得し、職業人としての能力と態度を育成します。	1 主体的に行動する態度と課題解決能力を育成 2 自律した行動と共感する心、他人を思いやる心の育成 3 校舎制における集合とリモートを適正に活用した教育活動の充実 4 基礎学力の向上と汎用的能力の育成による進路実現の支援(普通科キャンパス) 5 ビジネススキルとマインドを備えた社会で活躍できる人材の育成(商業科キャンパス)

5 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目				中間評価	最終評価	主な担当者				
重点取組			具体的取組	中間評価			最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○生徒の進路希望に応じたきめ細やかな進路指導により、生徒自身が自らのキャリア形成についての理解を深め、進路実現を達成させる。	○キャリア教育アンケートにおいて、「進路について考えることができた」、「ある程度できた」と回答した生徒の割合90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・各種進路行事を通して、自らの進路に関して考える機会を提供し、生徒自身のキャリア形成に対する理解を深める。 ・学期ごとの記録を通して、自分の取り組みを振り返る機会を準備し、さらなる活動の進展へつなげる。 ・主体的な「総合的な探究の時間」や校外活動への取り組みを通して、地域との関わりを深め、社会に必要な汎用的能力を育成する。 							
	○基礎学力の定着および家庭学習の充実 ○教科指導の充実(普) ○各種検定の習得の支援(商)	○授業評価で、基礎基本の定着や授業の理解が図られていると回答した生徒の割合が80%以上 ○家庭学習を充実させるための効果的な学習課題やICTを活用した課題が提供されていると回答した生徒の割合が80%以上(普) ○「商業に関する学びを深めたり、ビジネススキルの習得を行っている。」と回答した生徒80%以上(商)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や考査、小テストおよび評価活動に向けて必要な学習課題の提供 ・ICTの効果的な活用とClassiやスタディサプリなどの学習支援ソフトの有効活用を通じた学習の取り組みの支援(普) ・個の学びに寄り添うきめ細やかな指導を行う。(商) 							
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「他者を思いやることができた」「豊かな心を育むことができた」と回答した生徒を80%以上 ○「問題行動を未然に防ぐ生徒の指導が行われている」と回答した職員を80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任や教科担当、部活動顧問等から幅広く生徒情報の収集に取り組み、情報共有を図る。 ・人権・同和教育講演会やホームルーム活動を1回以上実施する。 ・授業や集会等で情報モラルに関する指導を1回以上実施する。 							
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校は、いじめ対策(未然防止・早期発見・即時対応)を行っている」「学校は、いじめ対策に関して、相談しやすい体制が整っている」に肯定的回答をした生徒それぞれ80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ事案対応に関する職員研修を年に1回以上実施する。 ・いじめアンケートを年2回実施し、実態調査を行う。 ・学校生活に関するアセスメントを年2回以上実施し、実態把握を行う。 ・週に1回、学年・生徒指導・教育相談担当等が情報共有を行い、連携を図る。 							
	◎郷土愛を醸成するための教育活動	◎佐賀県や地域について学ぶ活動や講演会を実施し、佐賀県や地域に誇りや愛着を持っている生徒を90%以上にする。	・「さがを誇りに思う教育講演会」や探究活動を通して地域の方々や企業等の代表者から話を聞き、佐賀県や地域の魅力を深める。							
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回(5月と11月)に食生活アンケートによる意識調査を行う。 ・定期的にご食育だよりと保健だよりを発行し、望ましい食習慣と健康との関わり、栄養や食品、旬の食材や行事食について等の情報発信を行う。 							
	●安全に関する資質・能力の育成	○防災について、高い意識を持っていると回答した生徒80%以上 ○交通ルールの順守や交通マナーの向上への自己評価80%以上。 ●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	<ul style="list-style-type: none"> ・風水害時の保護者の迎えの手順を文書で作成し周知する。 ・防災避難訓練を消防署立ち合いのもと実施する。 ・交通講話の実施や交通指導を行い、交通マナーの向上を図る。 							
	○心身ともに健康で、文武両道の充実した生活環境をつくる	○本校の「部活動の活動方針」に基づき活動ができた」と回答した教員75%以上 ○心身の健康維持・促進に積極的に取り組んでいると回答した生徒75%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が部活動へ積極的に取り組めるような環境を整える ・放課後の時間の有効活用について、HR等で理解を図る。 ・各部活動が部長を中心に積極的に校内外での活動に組み、学校の活性化につなげる。 							

●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・事務システムポータルを活用。 ・出退勤管理システムを活用し、個人で時間外在校等時間を管理する。 ・週に1日定時退勤日を設定し、業務の効率化を推進する。 ・学校閉庁日の設定。 ・部活動休養日の設定。 ・朝礼や会議等で随時、年次休暇の取得促進を促す。						
	○職場の相談体制を整え、働きやすい職場環境の構築	○働きやすい職場環境であると回答した教員の割合80%以上を目指す。	・校内のハラスメント相談体制を整え、相談に迅速に対応する。また、第三者相談機関を職員に周知する。 ・ゼロの日の服務規律指導時に、ハラスメント防止の徹底を図る。 ・職員研修を年間2回以上実施する。						
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会(事例研究)の実施 ・ケース会議の開催、教職員間での情報共有 ・「Hyper-QU(商)」「アセス(普)」(学校生活に関するアセスメント)の実施と結果理解についての研修会						

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体系的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勤めることができる生徒の割合80%以上、教職員の割合80%以上 ★県外からの入学者数2人以上	・学校運営協議会を年3回開催し、学校運営の改善に繋げる。 ・総探等においては、地域をはじめとした外部資源との繋がりの継続・拡大を図ることで生徒の成長に繋げる。 ・学校の魅力を積極的に発信する。							
○校舎制による円滑な学校運営の推進	○キャンパス間の連携・協力体制をより充実させる。	○「本校は、キャンパス間の連携・協力体制がある」と思う職員の割合80%	・合同の学年会や分掌会議を行い、キャンパス間の連携を図る。							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・次年度への展望 (簡潔に)	
----------------------	--